# 減災のための目標(案)について

#### H27. 9月関東・東北豪雨水害での主な特徴(鬼怒川の例)

- ①多くの住宅地を含む広範囲が長期間にわたり浸水
  - 〇常総市の約1/3の面積に相当する約40kmが浸水し、常総市役所も孤立
  - 〇宅地及び公共施設等の浸水が概ね解消するまでに10日を要した
- ②堤防決壊にともなう氾濫流により、多くの家屋が倒壊・流失
  - 常総市三坂町地先(左岸21k付近)で、堤防が約200m決壊
  - 決壊箇所周辺では、氾濫流により多くの家屋が倒壊・流失
- ③避難勧告等の発令が遅れたこと
- ④近年の洪水では類を見ないほどの多数の孤立者が発生
  - 〇約4,300人が自衛隊等のヘリコプターやボートにより救助
- ⑤ 隣接する市に避難したこと
  - 〇常総市では、隣接市に避難場所の開設を依頼し、これら市外の避難場所に避難者の半 数以上が避難
  - 〇ピーク時には、35市町村の避難所299箇所に、10,390人が避難
- ⑥必ずしも十分な土のう積み等の水防活動ができなかった
  - ○急激な水位の上昇の中、消防団は避難誘導活動に手を取られていた

## 減災のための目標(案)

■5年間で達成すべき目標

久慈川・那珂川の大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」を目指す

- ※大規模水害・・・・・想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害
- ※逃げ遅れ・・・・・立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態

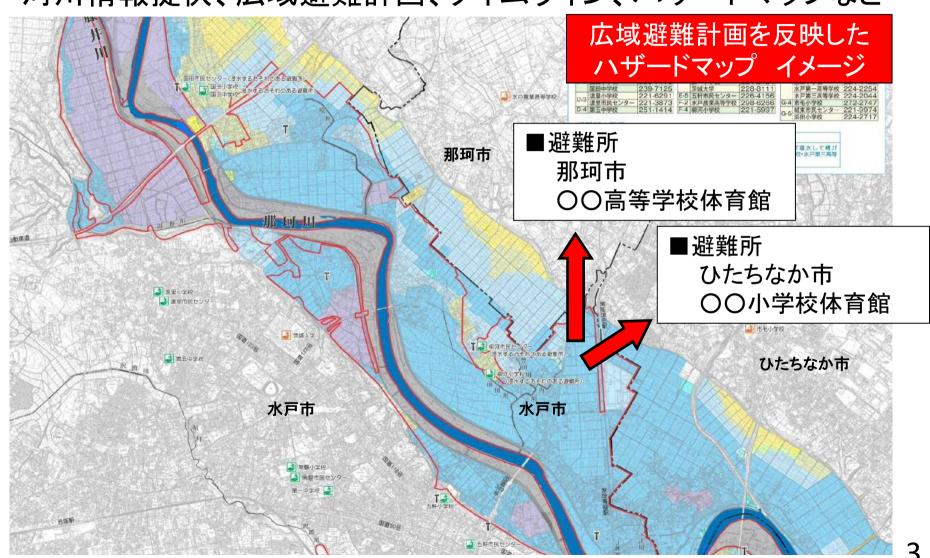
# ■上記目標達成に向けた重点的な取組

河川管理者が実施する堤防整備等の洪水を河川内で安全に流す対策に加え、久慈川や那珂川において以下の取組を実施。

- 1. 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組
- 2. 洪水氾濫による被害の軽減、避難時間の確保のための<u>水防活動</u> の取組

### 避難行動の為に有効と思われる取組 ①

- ■情報伝達、避難計画等に関する事項
  - ・河川情報提供、広域避難計画、タイムライン、ハザードマップなど



## 避難行動の為に有効と思われる取組

- ■平時から住民等への周知・教育・訓練に関する事項
  - ・浸水想定区域図の公表、HMの更新と周知、共同点検、避難訓練の実施など



### 避難行動の為に有効と思われる取組 ③

- ■河川情報等のさらなる充実に関する事項
  - ・監視カメラの増設、PC・スマートフォンなどへの画像配信 など



- 〇 リニューアルされた「川の防災情報」に画像閲覧機能が追加
- 〇 スマートフォンによる閲覧も可能

## 水防体制強化等の為の取組

#### ■水防体制の強化に関する事項

・水防活動の担い手となる水防団による水防演習









久慈川水系連合水防訓練の様子

#### 水防活動の効率化の為の取組

- ■水防活動の効率化に関する事項
  - ・水防団への重要水防箇所の周知、水のう等新たな水防資材の整備など





水防団との合同巡視で危険箇所を確認





新技術(水のう)を活用した水防工法